

令和6年度 看護業務改善のためのICT導入アドバイザー派遣業務

ICT導入による看護業務改善

医療法人健仁会 益子病院

施設概要

病院の理念

- I. 地域社会の皆様から安心、信頼される病院づくりをします。
- II. 24時間救急体制を取り、住民の皆様の健康と生命を守ります。
- III. 職員一人一人が誇りを持てる病院を目指します。



所在地	川口市芝中田2-48-6
病床数	115床(令和7年3月1日現在)
主に算定している入院基本料	急性期一般入院料4、地域包括ケア病棟入院料1
職員数	441名(令和7年3月1日現在) うち看護職員149名(看護師128名、准看護師21名、看護補助者34名)
患者数	令和5年度 入院患者数2,313名、退院患者数2,310名(うち看取り患者数43名)
看護部の理念 (患者へのケア方針)	益子病院の一員として自覚と誇りもち、患者様・家族の皆様の信頼に応えられるよう、安心・安全で思いやりのある看護・介護を実践します。
看護提供方式	プライマリナーシング・固定チームナーシング
看護記録方式	SOAP・経時記録等
現在使用している看護機材	ナースコール・センサー等
看護師の離職率	令和5年度 新人看護師0%、その他看護師10.9%
問い合わせ先	ホームページ https://mashiko.or.jp/hospital/ メールアドレス mashiko@mashiko.or.jp 電話番号 048-267-2211

本事業に参画した背景・目的

本事業に参画した背景

緊急入院の増加に伴い、
「電子カルテへの入力作業に時間を要し、患者の
ベッドサイドで過ごす時間が十分に確保できな
い」

- 年間2,000台の救急車受け入れを目標としており、24時間体制での救急要請対応を進めている。
- 電子カルテ入力作業に時間がかかり、患者のベッドサイドで過ごす時間が不足。
- 看護DXの導入により業務負担を軽減し、満足度や達成感の向上を図り、看護の質の向上。

本事業の目的

患者様と向き合う時間を大切にしながら、ともに病と闘う体制を構築するべく、患者様に信頼される病院を目指す。

〔現状の課題〕

- 業務の多忙さから、患者様との対話やベッドサイドケアに十分な時間を確保できていない
- 書類作成やデータ入力の負担を軽減し、患者とのコミュニケーションやベッドサイドケアを優先。
- 職員と患者双方の満足度向上を目指す。

取り組み予定期間と主な内容

期間		主な取り組み内容
令和6年	7～9月	・ 看護業務課題の抽出
	10～12月	・ ベンダー打ち合わせ ・ 導入するICT機器選定 ・ 経営層との導入方針の決定
令和7年		・ ICT機器導入、現場での運用開始と評価 ・ 現場への使用方法のレクチャー
令和8年		・ 導入効果測定、次年度課題の洗い出し ・ 1～2年目の取り組みの振り返り、4年目以降で取り組むべき課題の洗い出し
令和9年以降		・ 3年目に洗い出された課題への取り組み ・ 業務改善継続、新たな課題解決策の検討

課題解決へ向けた取り組みの目的・目標

目的

- 電子カルテ入力、申し送り、インシデント防止、入院患者受け入れ対応の負担軽減。

目標

- 業務改善によって確保した時間を以下の3つの重点業務に活用し、看護の質向上を図りたい。
 - (1)患者ケアの充実
 - (2)医療安全の徹底
 - (3)カンファレンスの実施

これらの取り組みを実現するため、看護部と事務部が連携し、ICT導入推進チームを設立して業務改善を進める。

取り組み内容（業務改善を行う業務）

#	業務改善する内容	用いるICT機器等	従来の所要時間 (時間/年)	想定削減余地	
				想定削減 可能時間(時間/年)	業務全体に占める 割合(%)
1	入院患者への説明対応業務	ポケさぼ	867時間	289時間	33%
2	申し送り・情報共有業務	インカム	1,583時間	209時間	13%
3	書類や記録作成に掛かる業務時間	ユビーメディカルナビ生成 AI	2,452時間	1,314時間	53%

ICTのご紹介① ポケさぼ

PMFをベースとした患者説明システム。多様な患者説明に対応し、患者説明に係る時間を削減し、個別ケアに充てる時間を創出する

製品の概要

- ポケさぼとは、動画やメッセージで患者説明を半自動で実行するシステム
- 前提条件としてchromeブラウザが使用できるPC端末1台、LINEアカウント1つ、導入時に限りスマートフォン1台必要
- 患者説明機能は以下3つ。初期費用で5パターンまで作成可能
 - 患者への説明を、わかりやすいオリジナル動画やLINEメッセージでご案内
 - 入院/検査日にむけてメッセージを自動配信し、患者を当日までフォロー。書類の書き方や持ち物、前処置の薬の飲み方等をリマインド
 - 患者さんからの一部問い合わせを、テキストで受け付けることも可能（機能オフも可能）
- アナムネ・問診機能は以下の5つ
 - アナムネと複数の問診をまとめて、1つのフォームに
 - 患者さんはスマホからフォームに回答を入力
 - 回答の出力は、手書きの問診票と同じデザインに
 - 患者さんの回答をふまえて、加算などの判定支援も可能
 - 回答は電子カルテにPDFデータとして連携し、コピー入力とQRコード入力が可能



課題と期待される効果

課題

- 入院説明にかかる時間にばらつきがあり、説明する場所の限りもあるため、患者の待ち時間が発生する
- 入退院支援業務は診療報酬改定により業務範囲が拡大したが、人手不足もあり職員の業務負担が増えている
- ペーパーレス化を推進しており、患者への配布物を減らしたい

期待される効果

- 導入効果としては「業務負荷軽減」「時間の有効活用」「ペーパーレス」
 - ✓ 対面業務が1時間から30分に半減した施設もあり、空いた時間は指導や新規患者対応に活用。待ち時間の短縮にも寄与
 - ✓ 1人あたりの配布資料をPDF化することで紙資料を約30%軽減（配布している資料内容なデジタル化対象とする資料枚数で削減枚数は異なる）

ICT導入により見込まれる効果（ポケさぼ）

製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
	定性or定量	測定したい効果			
ポケさぼ	定量	入院手続きにおける待ち時間の削減	入院手続きにかかる待ち時間を測定する。導入前後で数名ずつランダムに患者を選定し、受付開始時間、病棟で入院手続きを完了させた時間を記録し、その平均値の差を算出する	20分以上削減	導入1か月前・導入3か月後
		受入患者数の増加	導入の前年度（本事業1年目）と導入後1年経過した年（本事業3年目）とで、1年間の平均入院患者数に変化があるか比較する	10名以上増加	導入前年度・導入1年後
		看護師から患者への説明時間の削減	導入前後で数名ずつ患者を選定し、看護師から患者への説明にかかった時間の差を算出する	20分以上削減	導入1か月前・導入3か月後
		患者の入院対応への満足感の向上 看護師の入院対応へのストレスの軽減	導入前後の期間において、患者、看護師それぞれ数名ずつランダムに選定し、入院手続き・対応への満足感やストレス度合いについて聞き取り調査を行う	患者、看護師のそれぞれ半数以上（50%以上）が導入後の運用に満足している	導入1か月前・導入3か月後
	定性	患者、職員からの満足度向上に伴う病院のレピュテーションの向上	中長期的な効果であるため、本計画では測定の対象外とする		

導入時に見込まれる費用(ポケさぽ)

初期導入費用

50～90万／回

※病床規模により
変動運用支援も含む

運用保守費用／月

10～15万／回

(基本料金＋オプション)

※病床規模により
変動運用支援も含む



費用に含まれるもの

- ① 動画作成30分まで
- ② PDF作成20枚まで
- ③ QR 5QRまで
- ④ 支援MTG 5回まで

ICTのご紹介② インカム（アルインコ社製特定小電力無線インカム「ラベルトーク DJ-PX7」）

小型でクリアな音質のインカムであり、病棟内でのスタッフ間の迅速な情報共有や緊急対応に有用です。

製品の概要

- 小型・軽量でクリアな音質の特定小電力無線機（免許不要）。
- 最大26時間稼働し、イヤホンマイク使用可能。
- 病棟内での活用連絡・情報共有の効率化
 - ナースステーション⇄病棟スタッフ、医師⇄看護師間
 - 緊急対応（急変時やコードブルーでの迅速な連携）
 - 業務の効率化（物品補充指示、清掃・設備管理の連携）
- 導入時の考慮点電波干渉：Wi-Fiや他の機器と共存を考慮
- 通信範囲：広い病棟や地下では中継器の検討が必要
- プライバシー対策：秘話機能を活用し、個人情報の取り扱いに注意
- 端末管理：電池やメンテナンスを適切に実施。



課題と期待される効果

課題

- スタッフ間でのコミュニケーションを取るために時間・労力がかかる
- 病棟内もしくは院内のどこにいるかを探すために時間や労力がかかり、スムーズにコミュニケーションが取れない
- 電話をかけても出ないなど、相手が別件に対応中の場合は、完了するまで待つため、複数回かけ直す必要がある

期待される効果

- 医療従事者間のコミュニケーションの効率化
- 相手の状況に依らず、連絡事項をスムーズに連携できる
- 連絡したい相手がどこにいるかを探さなくても良く、コミュニケーションコストが低くなる

ICT導入により見込まれる効果（インカム）

製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
	定性or定量	測定したい効果			
インカム	定量	緊急時の対応力・連携の向上	緊急時の応答時間を記録し、導入前後で比較	20%以上短縮	導入1か月前・導入3か月後
		情報共有の負担軽減	看護師・スタッフ対象のアンケートで「情報共有のしやすさ」を測定	80%以上が「改善した」と回答	導入1か月前・導入3か月後
		直接対面せずに即座に情報共有	看護師・スタッフ対象のアンケートで「直接対面なしでの情報共有の利便性」を測定	80%以上が「改善した」と回答	導入1か月前・導入3か月後
		夜勤時の安全確保、単独対応のリスク軽減	夜勤時のヒヤリハット・インシデント報告数を記録し、導入前後で比較	30%以上減少	導入前3か月平均・導入後3か月平均
		業務効率化による残業時間の削減	看護師・医師の時間外勤務時間を記録し、導入前後で比較	20%以上削減	導入前3か月平均・導入後3か月平均
	定性	——	——	——	——

導入時に見込まれる費用(インカム)

初期導入費用

100万～130万
(50台購入した場合)

※1病棟10台×5病棟分



運用保守費用／月

—

- インカムの一般的な耐用年数は、約5～7年とされています。
- バッテリーの寿命は、2～3年程度で充電式バッテリーは消耗品であり、交換が必要となります。
 - ・バッテリーの交換は、ユーザー自身での電池交換は技術基準適合上の理由で禁止されています。
 - ・内蔵電池の交換は、購入先の販売店やアルインコ社のサービスセンターで対応。(税込5,500円/台)

ICTのご紹介③ ユビーメディカルナビ生成AI

診療の質向上を支援する医療機関向けサービス。生成AIの活用が医療現場での業務効率化に寄与

製品の概要

ユビーメディカルナビ生成AIとは、医療機関の業務に最適化した生成AIサービス

- ・ 前提条件として電子カルテの導入(Google Chromeのインストールは必要)
- ・ 文章の作成や要約、校正といった業務負荷の高い作業を、生成AIにより効率的に行うことが可能
- ・ 文章生成・要約の他、音声認識、画像認識、検索拡張生成(RAG)などの利用が可能
- ・ 入出力されたデータは言語モデルに学習されないため、閉域回線接続サービス等の、セキュアな環境で生成AIを活用可能
- ・ 生成AIができること(一部開発中)
 - 医師の診療情報提供書の作成補助
 - 看護師の退院時看護予約作成補助
 - 他施設からの紹介状要約
 - 各種診断書の文書作成
 - 電子カルテへの診療記録の文書作成
 - 業務マニュアルからQ&Aの回答
 - 議事録要約



課題と期待される効果

課題

- ・ 医師の働き方改革により、医師をはじめとする医療従事者の業務効率化・負担軽減が求められている
- ・ 文章の作成や要約、校正は業務負荷が高い

期待される効果

- ・ 事務作業の業務効率化
- ・ 文章作成や要約、校正といった業務負荷の高い作業を生成AIにより効率的に行うことができる
 - 退院時看護要約業務を最大1/3に短縮に短縮可能
- ・ 業務の質向上・均一化
 - スタッフのベストプラクティスを医療機関内で共有し、業務内容を改善することができる

ICT導入により見込まれる効果(ユビーメディカルナビ生成AI)

製品名	見込まれる効果		測定方法	目標値	測定時期
	定性or定量	測定したい効果			
ユビーメディカルナビ生成AI	定量	医療の質向上	退院サマリーやIC記録の負担軽減による看護記録の記録漏れや正確性をチェックし、導入前後で比較	記録の正確性向上（改善率20%以上）	導入1か月前・導入3か月後
		書類や記録作成に掛かる業務時間削減	退院サマリーの作成時間を記録し、平均時間を比較	40%以上削減	導入1か月前・導入3か月後
		手作業による記録作成の負担軽減	看護師へのアンケートで「記録作成の負担感」を測定	80%以上が「軽減した」と回答	導入1か月前・導入3か月後
		業務時間短縮による人件費削減	看護師の時間外勤務時間を記録し、導入前後で比較	30%以上削減	導入1か月前・導入3か月後
	定性	——	——	——	——

導入時に見込まれる費用(ユビーマディカルナビ生成AI)

初期導入費用

初期設定導入サポート費用
200万～



運用保守費用／月

生成AI 月額基本料金
12か月分

※ 別途、生成AIサービスに接続する費用

- 令和6年度補正予算案で示された緊急支援パッケージ(医療施設等経営強化緊急支援事業)「生産性向上・職場環境整備等支援事業」を活用予定

本事業全体を通して得られた効果・影響

1. 職員の意識変化

モデル施設として、外部からの協力指導を受けながら看護業務の効率化と質の向上に取り組んだ結果、職員の意識にも変化が生まれ、業務改善に対する前向きな姿勢が醸成された。

2. 次年度への期待・希望のある職場へ

- ① 職員同士の協力体制が一層強化され、支え合える職場への変化が期待される。
- ② 業務の効率化により心身の余裕が生まれ、笑顔や活気のある職場づくりが進む。
- ③ ベッドサイドで患者と向き合う時間が確保できるようになり、より質の高いケアの提供が可能となる。
- ④ 『改善できる』『もっと良くなる』といった前向きな言動が職員の間で増え、ポジティブな職場風土が醸成されることが期待される。



当院での取り組みポイント

■ チーム医療の強化：多職種連携を推進

- ・ 看護部、医師、リハビリスタッフ、薬剤師などの多職種が連携し、チーム医療の成功事例を院内で共有し、より効果的な連携体制を確立。

■ ICT活用の習熟：研修会や勉強会を実施

- ・ すべてのスタッフがICT機器を適切に活用できるよう、ベンダーと協力した研修を計画。
- ・ ICT機器を活用したシミュレーション訓練を行い、現場での適用力を向上。
- ・ 研修後のフォローアップとして、活用状況の確認や追加トレーニングを実施。

■ データに基づいた評価：導入前後の比較分析を実施。

- ・ ICT導入前後の業務負荷や患者満足度に関するデータを収集し、改善点を分析。
- ・ 収集データを基に定期的な見直しを行い、より良い運用方法を検討。

今後の展望

ICT機器の 活用範囲拡大

- モデル病棟での運用結果を基に、他病棟や診療科への展開を検討。
- 看護業務以外の部門(事務、リハビリ、薬剤部など)への導入可能性を調査。

継続的な 業務改善

- ICT導入推進チームを中心に、定期的な振り返り会議を実施し、導入機器の有効性を確認。
- 新たな課題が発生した場合には、適宜改善策を検討し、PDCAサイクルを回していく。
- スタッフの意見を積極的に取り入れ、現場のニーズに即した改善を継続。

新技術の導入

- 生成AI活用の更なる可能性を模索、記録支援のみならず、さらなる業務効率化を図る。
- 新たなデジタル技術(電子サイン、など)の可能性を模索。

ご清聴ありがとうございました